住宅設備・建材・資材・木材

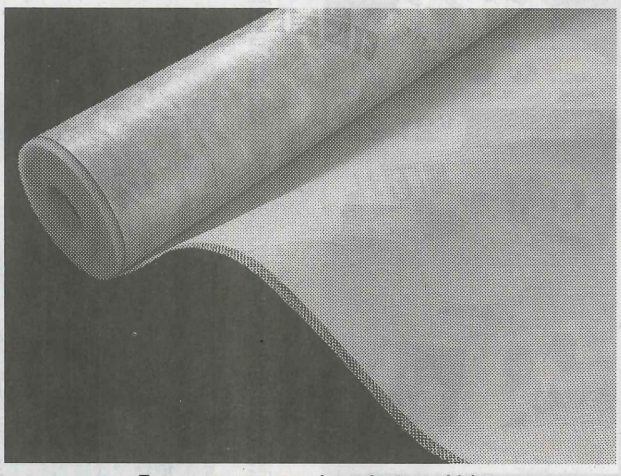
現場吹付発泡断熱材専用の屋根用下地材を発売

オズ・ワーク「ABSSエアネット」

遮熱・透湿・防水を確保し安定した密着性

垂木面母屋間施工で通気層確保

住宅関連部材メーカーのオズ・ワーク（大阪府高槻市、生田英和社長）は2月1日、木造軸組住宅向けとして開発した、現場発泡断熱材吹付専用の遮熱・透湿・防水の各性能を持つ屋根用下地通気部材『ABSS（アビス）エアネット』を発売する。同商材のベースとなっているのは既存商材の『ABSS（アビス）』で、それに耐熱性を持つポリプロピレン樹脂ネットを貼り合わせた。近年、木造戸建住宅に使用される断熱材として、現場施工性が高く気密性を確保しやすい現場吹付けのウレタンフォーム発泡断熱材の採用が拡大している。同社は『アビス　エアネット』を垂木面母屋間に施工することで通気層を確保できるため、現場発泡断熱材の採用でも2重屋根構造にする必要がなく、断熱材の厚みの均一性を高められ断熱性能を最大限生かせるとアピールする。

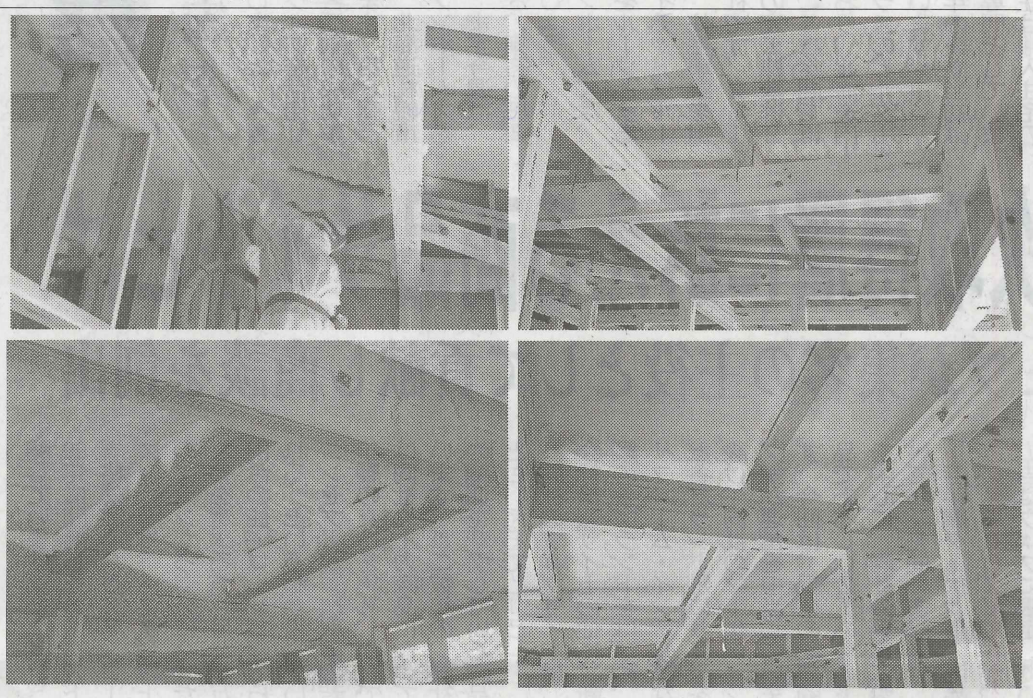


『ABSSエアネット』の外観

オズ・ワークが2月1日に発売する遮熱性・透湿性・防水性を持つ屋根用下地通気部材『アビス　エアネット』は、遮熱機能を持つPETアルミ蒸着不織布を屋外側にしてタッカーで部材に打ち付け固定後、内側の樹脂ネットに、ウレタンフォーム発泡断熱材を吹き付け施工できる。開発のベースとした『アビス』は2011年6月発売の遮熱・透湿・防水シートで、透湿性能として、JIS規格の寒冷地向け透湿抵抗値が0・13以下であるのに対し、0・09と「業界トップクラス」（オズ・ワーク）であることが特徴だ。

木造軸組工法住宅で採用される断熱工法は充填断熱工法が主流で、同工法に使用される断熱材は、グラスウールなどの無機繊維系断熱材および押し出し発泡ポリスチレンといったボード状の発泡プラスチック系断熱材が多い。

しかし、2010年頃、注文戸建住宅事業に加え関連事業を展開している住宅会社が市場競争力の高い現場発泡断熱材の販売を強化し始めたことを契機に、木軸住宅を扱うビルダーの間で現場発泡断熱材の採用が拡大している。理由には、繊維系断熱材よりコスト高となるものの、筋交いなどに合わせてカットする手間がなく、気密が取りやすいことなどを評価する住宅事業者が多いようだ。



『ABSSエアネット』の施工前（右上）と施工後（右下）、『ABSSエアネット』への現場吹付発泡断熱材の施工（左上）と施工後の様子

二重屋根が不要に

オズ・ワークでは、こうした現場発泡断熱材の施工状況として、ダンボール製および不織布製の下地材もしくは合板などに吹き付ける場合があるが、「どれも一長一短があるため、遮熱・透湿・防水機能があり、耐久性・密着性・吹付安定性に優れた通気下地」（同社）として、『アビス　エアネット』を開発した。

同社は『アビス　エアネット』の特徴を、①屋根からの輻射熱を75％遮り、断熱材への蓄熱を抑え、断熱効果を高める。また、内部結露を防ぐ透湿性、万が一の雨漏りを防ぐ防水性を備える②吹付安定性、気密性・透湿性を有し、また、発泡断熱材の膨張により通気層をふさぐ心配がなく、断熱性能を最大限に生かせる③垂木面母屋間施工により通気層を確保し、二重屋根とする必要がない。また、断熱材の厚みに均一性を持たせ、断熱性能を最大限生かす――などと説明している。

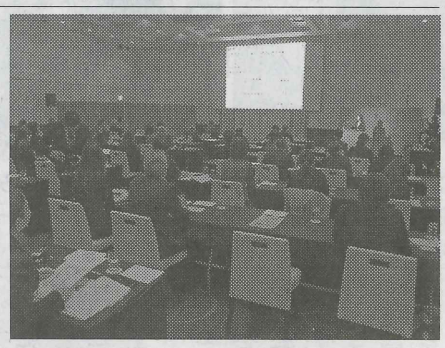
同商品は、仕様が1本＝幅1000ミリ×厚さ1・3ミリ×長さ10メートルで重量3・6キログラム、材質がPETアルミ蒸着不織布・透湿PEフィルム・PET不織布の3層シートと耐熱性PP樹脂ネットの貼り合わせで、価格は1万8千円（税別）。受注受付の最少ロットは2本からで、詳細な問い合わせは同社特販部が受け付けている。今後は、今回発売の木造軸組工法用のほか、2×4工法用も商品化したい考えだ。

YKKAP第2回CS全国大会

「高評価の連鎖目指し」最優秀賞に

「4月に業務本部新設」と堀社長

YKKAPが16日に行った同社社員対象の「第2回CS全国大会」の最優秀賞に、営業本部・体感ショールーム所属の中西瑠美子さんが発表した、東京・品川の同社『体感ショールーム』でのCS活動事例『高評価の連鎖を目指して～お客様につなげる第一歩』が選ばれた。大会の冒頭の挨拶で同社の堀秀充社長は、新年度となる4月に「業務本部」（仮称）を新設し、営業部門に加え生産・開発の両部門も加いとの意向を明らかにした。YKKAPは今回の全国大会のエントリー対象を、前回の営業本部・リノベーション事業部のほか、新たに生産・開発の両本部にも拡げた。同社は全国大会で扱った事例をイントラネットに掲



発表を聞く同全国大会の出席者

る――とのアピールを行うことにした。

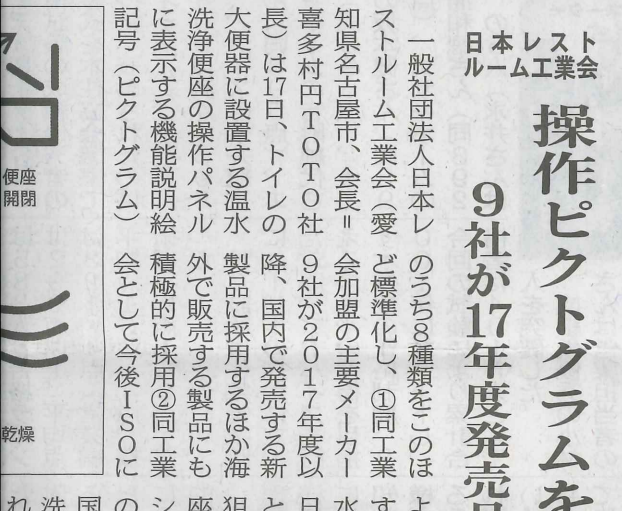
そのため①同僚スタッフにTDYのアライアンスに至った背景と目的を伝え意識レベルを統一②YKKAPの窓商品をパートナー企業の商品と関連付けて説明し、特徴がイメージしやすい案内――を実践。結果、案内して～お客様につなげる第一歩』の内容は、2016年にYKKAPが東京・品川で開設した『体

日本レストルーム工業会

操作ピクトグラムを標準化

9社が17年度発売品から採用

一般社団法人日本レストルーム工業会（愛知県名古屋市、会長＝喜多村円TOTO社長）は17日、トイレの大便器に設置する温水洗浄便座の操作パネルに表示する機能説明絵記号（ピクトグラム）のうち8種類をこのほど標準化し、①同工業会加盟の主要メーカー9社が2017年度以降、国内で発売する新製品に採用するほか海外で販売する製品にも積極的に採用②同工業会として今後ISOによる国際標準化を目指す――と発表した。温水洗浄便座に対する訪日外国人の利便性向上と海外での普及拡大が狙い。国内温水洗浄便座市場は前述の9社でシェアがほぼ100％のため、17年度以降に国内で発売される温水洗浄便座商品に表示される主要機能の操作ピ



③便器洗浄（大）④便器洗浄（小）⑤おしり洗浄⑥ビデ洗浄⑦乾燥⑧機能停止――の8種類。策定に際し工業会加盟各社のデザイナーで構成するワーキンググループが検討を重ね、日本と海外の利用者を対象としたWEBアンケート調査での検証結果と、「直感的なわか

化ピクトグラムを手にする同工業会の主要加盟企業

「『アラウーノ』専用手洗い背面タイプ」リリース

パナソニック・エコソリューションズ社

パナソニック・エコソリューションズ社は2月20日、リフォーム用途をターゲットにした「全自動おそうじトイレ『アラウーノ』専用手洗い背面タイプ」（以下「手洗い背面タイプ」）＝写真＝を発売する。従来のキャビネット・カウンター・コーナー――の各タイプに新バリエーションを追加、様々なトイレ空間への対応力を強める。価格（税および工事費別）は手動水栓の「据置き型」が10万5千円から、同「フロート型」が13万円からで、自動水栓の「据置き型」が13万5千円から、同「フロート型」が16万円からの設定だ。

「手洗い背面タイプ」の収納は据置き型が奥行80ミリ、フロート型が同145ミリで、タンク付きトイレ並みの奥行きに抑えつつ実用性を考慮し、フロート型はトイレットペーパーなら8個を収納できる。手洗いのボール部は共に深さ110ミリで、清掃時に手入れがしやすい有機ガラス製を使っている。

アマゾン

「プロ工具ストア」立ち上げ

需要商品を品揃え

総合オンラインストアAmazon.co.jp（以下、アマゾン）は19日、「プロ工具ストア」（https://www.amazon.co.jp/protool）を開設した。プロ向けの需要が高い先端工具や替刃などのまとめ買い商品を充実させたほか、水回りリフォームの施工手順や注意点を写真付きで紹介するコーナー（https://www.amazon.co.jp/protool-dandoli）を用意した。開設記念として2月16日まで、商品価格が表示金額より10％引きとなる『プロ工具ストア　オープン記念セール』を実施する。

アマゾンは一般消費者向けに、2009年に「DIY・工具ストア」、15年にキッチンやユニットバス、トイレといった水回りのリフォームやハウスクリーニングサービスを提供する「リフォームストア」を開設している。今回のプロ向けコンテンツの立ち上げに当たっては、これらのサイトから拾い上げたニーズを反映させた。同社は「プロ工具ストア」について、商品ラインアップのほか当日配送にも対応する高い利便性も工期短縮や多能工化への対応に寄与できるとしている。